

岐阜保健大“名古屋看護学部”

「地域支える人材育成」

運営法人代表ら構想語る

名古屋市内に新学部「名古屋看護学部看護学科(仮称)」を設置する構想を発表した岐阜保健大が4日、岐阜市東鶉の同校で会見を開き、運営法人の代表らが「学園事業の拡大展開によって、地域を支える人材育成に尽くす」と語った。

2023年3月に閉校した旧名古屋市医師会看護専門学校(同市港区)の校舎など教育資源を継承する形で27年4月に新学部を開設する。入学定員は80人で、看護師の養成に加え、保健師の国家資格取得を目指すコースも設ける。設置後は従来の岐阜キャンパスの看護学部看護学科の入学定員を20人減らし60人とする。中部圏を中心として、より広域で学生を募ったり、

名古屋市内に新学部「名古屋看護学部看護学科(仮称)」を設置する構想を発表した岐阜保健大が4日、岐阜市東鶉の同校で会見を開き、運営法人の代表らが「学園事業の拡大展開によって、地域を支える人材育成に尽くす」と語った。

会見で河田美紀学長は、



「岐阜、名古屋それぞれの地域で医療人の輩出を目指す」と語る河田美紀学長(中央)＝岐阜市東鶉、岐阜保健大

少子化による学生の確保の困難さや受験生の都会志向といった、県外に新学部を開く構想に至った背景を説明。医師会とのつながりを生かした講義や実習を強みとする方針を示した上で、「地域医療に貢献できる医療人の養成、輩出を岐阜、名古屋それぞれの拠点で目指していく」と述べた。

(山田俊介)